

貯木場における安全活動

熟田営林署 山本達雄
営林署一同

1 はじめに

人命尊重が叫ばれて久しいが、災害をなくす特効薬はない。安全管理は、あれを、これをやつたから、よいというものでなく、あらゆる分野、方法、機会をとらえ、常時、安全に取り組む姿勢が大切である。

今回、当署における、安全衛生活動事例を無災害継続の背景と0災運動の取組みの二つを中心に発表して、皆様の御批判と御指導を仰ぎ、あわせて、御参考になる点があれば望外の幸せとするものである。

2 貯木場の紹介

大都市公災指定地域内にある当水中貯木場は魚釣り、筏乗りという、子供の危険な遊び場として、あるいは、木皮処理の煙や池の水質の面で、周辺住民の、関心が高く、全職員が、これを認識して、その改善に取り組んでおり、また、一方では光化学スモッグ対策を講ずるなど、置かれている職場環境への積極的な改善取組みが、無災害継続の原動力ともなっている。

以下、貯木場の概要に触れると、

管理面積	15HA
事業量	3万 ^m (昭41-8.8 ^m)
職員	47名(昭41-73名)
作業内容	直営 検知、場内整備等 請負 仕訳～積

この実態の中で、安全活動は自分達の職場のみに限定せず、その範囲を同一構内で、滞在し作業している請負、下見の業者と、その従業員はもとより、周辺学区住民にまで、広げる努力を払うことによつて本活動のマンネリ化防止と、その質的向上をはかっている。

3 無災害継続の背景

安全活動の特徴点

前述のとおり、危険の少ない職場ではあるが、第2次国有林野事業労災災害防止五ヶ年計画を受けて、昭和43年度に安全活動の中心目標を百万時間無災害に置いて以来7年7ヶ月目(41.4.27~48.1.1.2.2)で目標を達成し、連続10年間無災害記録が、本年4月26日と目前に迫っている。

無災害の取組みの中で職場全体の意識、意欲が高揚し、安全活動が生き生きとしてきたことは事実で、数多くの中から主なものを紹介すると、

- 1) 安全衛生委員会が形式にこだわらず、充実している。

どんな問題でも提起し、差別せずにとり上げ、検討して、結論が出れば速やかに実行している。

- 2) 安全衛生教育が、さかんである。スタッフの努力で時宜を得た、格調の高い講話を聞いて安全意識の高揚をはかっている。

名大心理学教授による「プレッシャーの克服」、名市短大助教授による「機敏な動作を保つために」、あるいは、名城大教授による「交通災害賠償」（心理論）などの講話、講習等である。

- 3) 署員と安全管理者との対話があり、意思疎通がはかられている。特に、安全作業上の打合せが十分時間をかけて行っている。

- 4) 安全衛生活動の中に、自己啓発および、実践能力の開発をとり入れている。例えば、掲示板、安全標識の作製および記念庭園の作設等を職員自身で実行している。

- 5) 単調な通常業務以外に不安全箇所の改善等を通じて「やる気」を掘り起こしている。

等をあげることができる。

この外、当署安全活動の特徴と言えるものは「貯木場の紹介」で述べたように、置かれている職場、環境への積極的な改善取組み、および、安全を職場内にとどめず、同一構内の部外者から周辺学区住民にまで広げる努力を払っている点である。

なお、無災害の継続は先取り安全への取組みに専念できる点、および、職員の気持の上に記録という重荷が乗つかかる反面、その意識が一人一人の日々の注意と行動に与えている影響も見逃がせないものがある。

(別表1「貯木場の安全活動」参照)

4 0災運動の取組み

1 0災運動とは

全員を主役とする0災害全員参加運動は昭和48年中央労働災害防止協会の提唱のもとに、各所で展開されている。

その特徴は、作業班等を単位とする小集団活動方式で、リーダー中心とし、自主的に話し合つて、潜在災害の発掘、安全作業標準の見直し、災害事例の研究を行う等、メンバーが自分達の作業場(バ)の問題を掘り起こす運動を行っていることである。

そして、0災とは、1日0運動の積み重ねであつて0にこだわらず、災害が発生すればその時点から、また、0をめざそうとするのである。

2 導 入

無災害記録達成以後の目標を、どうするか論議は本記念行事(4.8.1.2.1.7)の決議で「……本行事を契機として、新たな災害ゼロ職場の確立の大目標に向って、まい進する。…」という決意表明でその集約をみたが、この「運動の進め方」を中部安全衛生サービス・センターの助言と職場の実態に沿った創意工夫を出し合い討議して実施要領の決定をみたのである。

0 災害全員参加運動実施要領(概要)

- i) 趣旨、仕く者の安全と健康確保に「百万時間無災害労働達成」の経験を生かし、全署員参加の安全衛生活動を行う。
- ii) 0 災運動推進委員会、運動の促進をはかるため運動推進委員会を設ける。
- iii) 期間、4.9.4.1～5.2.3.3.1(3年間)
- iv) スローガン、全体目標および自己目標
(別表2「0 災運動スローガン」参照)
- v) 具体的実施事項、当初は全員が安全当番に参加とし、自己意識を啓発しながら、順次運動の拡大をはかる。

以上の実施要領で本運動の参加事業所(表1.3.4)として、スタートをみたが、円滑な導入の背景は貯木場という、職場条件を生かした、全員による安全活動の推進実績が大きく寄与している。

(別表3「安全衛生管理組織」参照)

3 安全当番と安全チェック表

当番における、0 災運動の特徴とする安全当番は本運動の直接の推進者で、職場の安全を「考え、実行し、反省する」習慣をもち、自らが「今日1日はゼッタイ安全に」心掛け、逐次、危険箇所の発見、不安全動作の注意等を払っていく使命を持っている。そして必要ある場合は安全管理者の単なる指導のみでなく、会合をもち、意思疎通をはかる等、文字どおり、全員参加の体制をとっている。

安全当番は全署員を、間接、事務、管理監督者を問わず、所属別(外業従事、事務所、庁舎)に分け、各1名ずつ出で、3名1組編成で2週間(初年度1週間)の交替制とし、変則的であるが、主査を置く等、小集団活動の性格を持っている。

実施事項は腕章の着用、安全旗の掲揚、林業体操の実践、TBMの開催、バイオリズムカードの呼び掛け、蚊の捕集調査の協力、点検(服装、施設、動作)、安全チェック表の取りまとめ等である業務を行う中で、先づ、自らの安全意識を高め、周囲に対して気楽に注意し合う職場づくりの役割を持っている。

安全チェック表の様式は、別表4のとおりであり、3人の当番者が、それぞれの立場、持揚の中

を単独で、あるいは共同で巡回してチェック、改善した事項を話し合い、まとめて記帳し、当番安全管理者に提出する。当番者で改善できない大きな事案は、直ちに、その実行対案を担当上司で検討し、その結果をチェック表に記入するが、提出された表は全て直近の月例安全衛生委員会に報告する。事案によつては委員会がさらに、検討して意見を付する場合がある。

このように安全当番は潜在災害事案を発掘し、話し合い、卒先して改善する等、自らが、安全の主演となり他方、トップラインは指摘事項の速やかな処理を行うことにより、当番者の意欲増進をはかっている。

4 成果の課題

0 災害全員参加運動の成果は、連続10年間無災害記録を目前にするまでになったことであるが、それよりも職員一人一人が不安全を自ら発見し、他人に依存せず、自らただしていく。という状況のなかで安全を自分のものだけでなく、仲間の、それも職場の殻を破り、広く、広く仲間のためにあるという気概が生まれ、心のかよい合う仲間づくりが芽生えてきたことである。

課題としては、無災害記録が心理的に負担となっている点であり、本年度の安全計画基本方針に「気軽にやろう安全活動」とうたい、プレッシャーの克服に取り組んでいるが、何よりも大切なことは、気軽に話し合える明るい職場の需困気づくりをより発展させていくことである。この努力が無災害を当たり前という心理につながることを期待している。

5 む す び

安全活動の基本は、明るい職場の需困気づくりにあるが、それに向けて何わなすべきかだけでなく、何をしたかが、問われなければならない。

その上で新しい機械の導入など、たえず動く現場の状況に遅れることなく、その実態に即応した、創意工夫のある自主的な安活動をより定着させるため、ライン・スタッフの勉強と熱意で第一線のメンバーに、常に新鮮な情報を送り込むと同時に提起される問題への化打破をはかり、終着駅なき無災害職場づくりに向けて、皆様と一諸に前進していきたいと思っています。

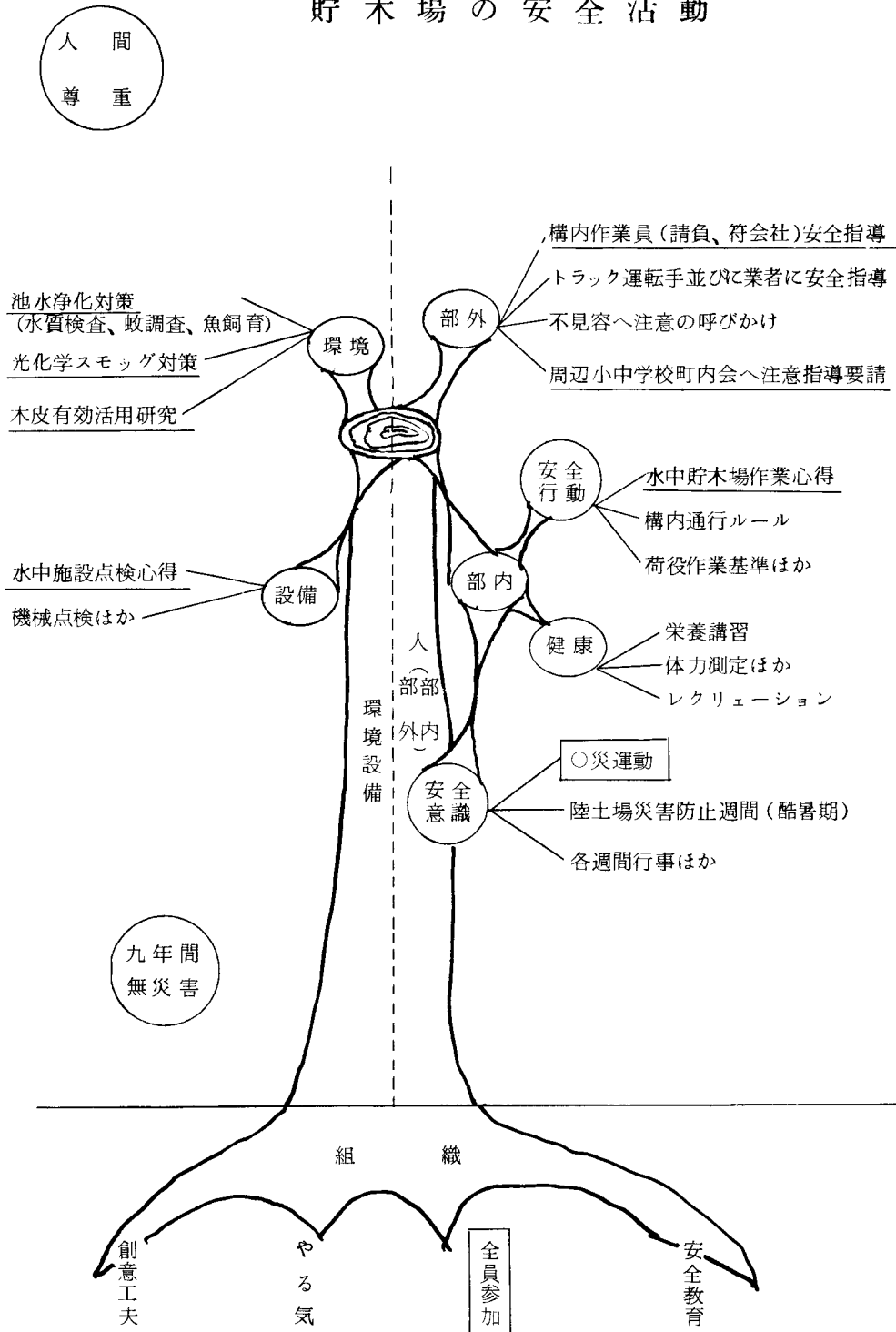
最後に無災害職場づくりに向けて営々と努力を積み重ねてこられた、先輩諸氏の功績を多とするところである。

「あなたが主演の0 災運動」

工夫と努力で明るい職場」

別表1

貯木場の安全活動



○ 災 運 動 ス ロ ー ガ ン

○ 全体目標

全員参加でゼロ災職場を創ろう

…………… 日々の注意と行動への積極取組み ……………

○ 個人目標（例）

炊事手 炊事場からゴキブリ・ハエを出さないようにします

検知手 人と接するときは、いつも笑顔で

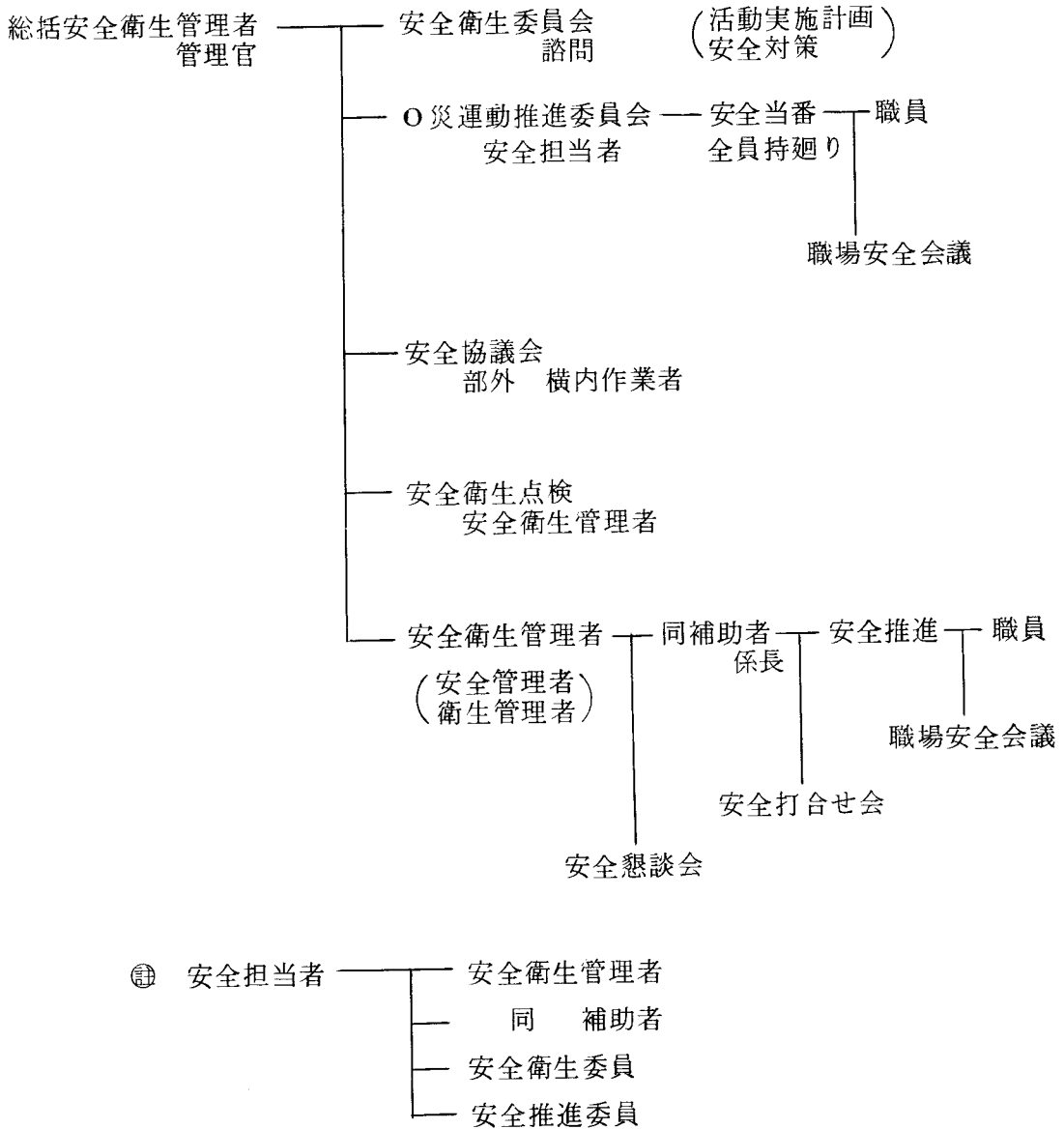
用務職 自転車で使いに出るときは、前後左右を必ず、確認
します

内勤者 危ないことは、お互いに気軽に注意し合おう

係 長 見まわりと、安全の呼びかけを励行しよう

別表 3

安全衛生管理組織



別表4

安 全 チ ェ ッ ク 表

月 日～ 月 日		安全当番者					
回 覧	安全衛生委員長	安 全 管 理 者		企画係長	貯材係長	主 査 月 日	
項 目	指 摘 事 項	実 行			実 行 確 認 (指 摘 者)	備 考	
		月日	摘 要	印			
施 設							
作 業 動 作							
火 気 ・ 危 険 物							
機 械 ・ 器 具							
環 境 ・ 衛 生							
そ の 他							
推 奨 事 項							

中日新聞

発行所
 中日新聞本社
 名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
 電話 名古屋 (52) (30) 8811
 〒460 郵便振替 名古屋10号
 © 中日新聞本社 1976



材木の上で羽根を休めるシラサギ 名古屋
 市熱田区の熱田宮林業白鳥貯木場で

堀川浄化のあかし

熱田の貯木場にシラサギ

街中の別天地でエサを求めて舞に飛び回るシラサギ。名古屋熱田区熱田宮林業白鳥貯木場に、シラサギの雛が住みつきました。「五十年以上も貯木場で仕事をしていたが、こんなに多くのシラサギを育てるのは初めて」と、古い木材商匠者、同貯木場へ入っている堀川の水質が徐々によくなっていること、同業者の努力で貯木場に魚が住みつくようになったり、その魚を求めてシラサギが住んできたらしい。

シラサギの姿が目立ち始めたのは一昨年、今では早朝約五時頃、昨年十一月からその数は一日間でも二千羽は住みついている。

堀川の水質がよくなったことが、シラサギの増えのあかしだ。堀川の水質がよくなったのは、堀川浄化事業の効果が現れているからだ。堀川浄化事業は、昭和四十八年から実施されている。堀川の水質がよくなったのは、堀川浄化事業の効果が現れているからだ。堀川浄化事業は、昭和四十八年から実施されている。堀川の水質がよくなったのは、堀川浄化事業の効果が現れているからだ。堀川浄化事業は、昭和四十八年から実施されている。

シラサギの増えは、堀川浄化事業の効果が現れているからだ。堀川浄化事業は、昭和四十八年から実施されている。堀川の水質がよくなったのは、堀川浄化事業の効果が現れているからだ。堀川浄化事業は、昭和四十八年から実施されている。堀川の水質がよくなったのは、堀川浄化事業の効果が現れているからだ。堀川浄化事業は、昭和四十八年から実施されている。